

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和5年度 第3回)

○日 時 令和6年3月26日(火)10:00~12:00

○場 所 WEB 会議

○出席委員 河岸委員(部会長)、岡戸委員(副部会長)、後藤委員、山岡委員、【北川委員代理】山本委員、東委員、築地委員、【堤委員代理】安原委員

○欠席委員 —

○同 席 滋賀県介護福祉士会 中村理事、村田氏

○オブザーバー (株)JR 西日本コミュニケーションズ(委託先事業者)

○議 題

- (1) 令和5年度介護のしごと魅力発信事業について
 - ・令和5年度事業の実績報告
- (2) 令和6年度介護のしごと魅力発信事業について
 - ・次年度体制について
 - ・「介護のしごと魅力発信事業」自走化に向けた検討状況 等
- (3) その他

1. 議題(1) 令和5年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料1 委託先事業者から説明

- しがけあアンバサダーの募集をかけて、7名に決まった。インスタでの発信とイベント出演で魅力発信をしている。アンバサダー会議は6回行った。当初は3回まで集合して会議を行う予定であったが、皆さんのやる気があったので、4回目まで集合開催に変更した。インスタの発信は遅れ気味にはなっているが、順番に月一人1回くらい担当して、ほぼ週1か2で発信できる状態である。
- 学生プロジェクトでは、びわこ学院大学の学生の他、普段介護とあまり縁の無い就活ルーム tugumi の学生を巻き込み、それぞれの視点から発信を行った。びわこ学院大学の学生は、ブログの発信やパンフレット「介護のシゴト」への出演、しがけあフェスタへの参画など。就活ルーム tugumi の学生には、介護施設へ訪問し、仕事を体験し、職員や利用者にインタビューを行い、感じたことをレポート化したものをパンフレット「介護のシゴト」として完成させた。
- しがけあフェスタはビバシティ彦根に変更し、ステージと体験ブースの距離感が近くなったことで、連動性がアップし、集客率の向上に繋げることができた。ターゲットである学生の参加やアンバサダー、県内企業の参画により、これまで以上に関係人数を増やすことで盛り上がりを醸成できた。
- パネル展は、しがけあフェスタを皮切りに、ビバシティ彦根を含めて4会場で開催した。
- フェスタの参加者数は、ステージ 950 名、体験 1,700 名、合計 2,800 名ぐらい。目標 2,000 名を、昨年度 1,830 名ぐらいであったので、約 1.5 倍の参加者数を達成することができた。フェスタのアンケートは、概ね好評であった。
- ウェブサイトの発信では、学生プロジェクト・アンバサダーのエンゲージメント時間が長い。「データで見るしがけあ」も、割と長い。過去のコンテンツも見てもらえているように思う。ユーザー分析では各市町村の上位 20 のうち、滋賀県の 14 市町が入っているの、滋賀の方を中心に見えもらえたと思う。アンバサダー紹介コンテンツは 1,200 回くらい閲覧されており、平均時

間1分半くらい。

- アンバサダーインスタグラム、3/4時点のインサイトでは、リーチが1,000ちょっと。フォロワーとフォロワー以外の割合は、フォロワー以外にたくさん届いているので、滑り出しとしてはいい傾向。フォロワーは84名。100名を目指したい。
- インフルエンサーMumeiさんとのコラボでは、アンバサダーと対談したり、フェスタに来てもらって動画を作成してもらい、2月9日に公開をした。視聴回数は昨日4.8万回だった。視聴者は、男性が多く、18歳から34歳が多いので、ターゲットに届いていると評価している。
- ウェブ広告は、Googleファインド広告は、クリック数1,000回程度にとどまった。分析したが、学習型の広告配信であるため、学習するほど効率よく単価を下げて配信ができるが、期間が2週間と短く、学習がうまく進まなかったか。UNIVERSE Adsは、グーグルをカバーする形で多くのクリック数があった。
- 交通広告は、アンバサダーポスターとしがけあフェスタのポスターで実施した。
- プレスリリースは、継続プロジェクトなので、1ページ目はあまり変えず、2ページ目に新しい内容を出した。露出の媒体数がやや減った。昨年度、地元のメディアに配信を行ったが、あまり広がらなかったのも、メジャーどころをメインに行った。
- 効果測定は継続調査なので、サンプル数等変えていない。介護の仕事のイメージは前回とあまり変わっていない。認知状況は13.5%から15.9%、飛躍的ではないが、確実に上がっている。認知経路は、イベントによる認知が増えている。口コミも上がっている。広告接触後の意識・行動喚起が起こった人は67.7%。プロジェクトを高く評価する人は7割超えた。介護の仕事の興味・関心度、興味関心を感じる人が5割超える。しがけあプロジェクトの認知者で言うと9割を超える。就労意向の変化については、今回からの調査だが、就労してもいいかなと感じている人が3割以上いる。しがけあプロジェクトの認知者で言うと、6割になる。
- しがけあプロジェクトを認知すると、介護の仕事広告接触後の意識・行動喚起、介護の仕事の就労意向が高まる。
- 顕著にポジティブな方向に出た。体力的・精神的にきつそうというイメージが下がっている。人や社会の役に立つ仕事とかポジティブなイメージが上昇。少しずつ3Kのイメージが減って、イメージアップし、結果的に就労に繋がるのではないかな。
- 目標と達成と考察について、サイト来訪者、目標及ばなかった。認知率は、特に学生において高かった。昨年度より大幅に上がっているが、態度変容率は若干及んでいない。

【委員】

- しがけあを認知してもらうのに悪戦苦闘している。イベント・SNS発信でとにかく拡散していくということで良いのか。

【オブザーバー】

- コンテンツが揃ってきたので、多くの方に見てもらおうと介護の評価が上がるということなので、広告配信であったりイベントは重要な事業だと思う。

【委員】

- しがけあ認知度と就労意向の相関ではなく、因果関係として説明できるところがあれば教えてほしい。また、サイトのアクセス少ないが、HPにアクセスしなくても、YouTubeとかでインスタ発信へのアクセスも、それなりにしがけあの主旨が伝わっていると思うので、成果として捉えられるのか。

【オブザーバー】

- 因果関係をこのデータで直接立証できない。元々興味ある人が、答えている可能性がある。介護の仕事の内容を良く知っている人ほどポジティブイメージがあることは、因果として説明できる。三段論法として、しがけあの認知が上がる、コンテンツたくさんあってわかりやすく説明している、その説明を受けてポジティブイメージを持つということは、ある程度因果があることは推測できる。
- Mume i さんの動画は自分の推しをきっかけに、推しが介護の勉強をしているということを知ってもらうだけでも効果があると思う。アンバサダーのインスタは、また違った角度で発信していて、現場に近いとこういう感じのことがあるのだという理解を促していると思う。

【委員】

- 全体として気になるのは自走化したときに、どれを残し、どれをやめて、どれを強化してといった戦略的な発想が必要になってくる。判断の材料をこのように出してもらっている、これを材料に議論していけば、次どうすべきか見えてくる。議論のプロセスが難しい、このような広告の専門家に引き続き協力してもらう必要がある。

【委員】

- 興味深いのは、サンプル調査の母集団で、これをどう捉えるか難しい部分がある。行動喚起とか、全てにおいて好ましい結果がでている。しがけあを認知している人が大きくプラスに動いているので、今やっていることが間違っていないということになる。介護の仕事のイメージの変化は、職業についている人は変化していないと思うので、よく知っている人たちとはどういう人たちなのか。

【オブザーバー】

- 直接介護の仕事に就いている人はサンプルからはじいているので、仕事されていない方の結果と見てもらっていい。

【委員】

- よく知っている人とは、身近に働いている人がいる方を想像するが。

【オブザーバー】

- そういう方だと思われる。

【委員】

- 当初からこの事業に関わり、3年間皆さんと一緒にやってきたことがすごくよかったと思う。目に見えた結果がすぐに出る訳ではないが。最初は、人材確保に繋がれたらと思っていたが、その前にまずイメージ変えたいというところから発信した。少しずつイメージが変わった部分があるのではないかとと思う。
- 自走化で、何を残して、何を強化するのか自分たちではわからないので、引き続き専門家の力借りて、アドバイスをいただきながら継続していくことが一番大事と思う。イベントなどに参加したときに、介護業界でない方から声をかけられ、少しだがイメージが変

わっていつている印象を受けている。アンバサダー等、若者の介護職員が活躍できる場面を作ったことは本当に良かったと思うので、継続してやっていけたらと思う。

【委員】

- イメージは向上していて、続けることが大事と思う。介サ連は会員がたくさんいるが、今介護に携わっている人たちの何%が、しがけあを知っているのか？滋賀県の人口の中で10代20代30代の%が知っているのか？滋賀県の人口の中での認知度が増していることが実感できたら、もっとやりがいが見えるのかなと感じた。全体の0.1%程度の話なら、もったいないと思うので、全体の中で、他の業種よりも目立つような取組になっていけばと思う。

【委員】

- 効果測定500サンプルは、どのような方を選んでいるのか。

【オブザーバー】

- 調査会社から回答依頼が来たときに、回答したらポイントがもらえる仕組みになっており、それで集まった会員の中から選んでいる。介護職に就いている方は除いて、できるだけバランスよくなるよう集めている。スマホかPC使える一般の方である。

【委員】

- 介護がイメージアップしているので、良かったと思う。少子化と言われている中、子ども達に介護の仕事の魅力を知ってほしいと思っている。どういうところで具体的にイメージアップしたのかがわかると、来年度どのように進めていくのかがいいのか具体的に考えていくことができるかなと思った。

【委員】

- SNSにアクセスする人は、推しの人のところを同じ人が何回もアクセスしている可能性はあるのか。

【オブザーバー】

- そのとおり。

【委員】

- 人の役に立つとか社会に欠かせない仕事という感想とかも調査の中にあり、今働いている人たちのモチベーションアップに繋がるような結果だと思う。
- 外に発信することも大事だけど、今働いてる人にもこの取組の中で、外部の人がこういうふうに見てるということも、今後発信して知ってもらうのもいいと思う。
- 3年間やってきて、やはり継続が大事ということを感じた。

【委員】

- 授業の合間に学生プロジェクトをしていた。子供に対して取り組んでいるが、一緒に来た親御さんに何かできたらよかったなと思っていた。パンフレットは配ったが、親の方にも何か仕掛けができたらと思う。イベントに、学生と一緒に来ていた中学生の妹は、M

ume i さんを見たくて来ていた。私たちが知らないところでそういうこともあるのだ
なと、今回すごく感じた。できたら、中高生をターゲットにした内容がもう少しあればと
思った。後は、イベントに、ここに行ったら次はそこに行くというような流れを作ること
ができたと思う。学生は、元気で無防備なので、来てくれる人もフレンドリーに接して
くれてよかったと思う。

【委員】

- 彦根のイベントには行けなかったが、過去の草津で実施した2回とだいぶ雰囲気違った
と話を聞いている。イメージがよくなったその一歩先に進むため、まだまだ続けるこ
とはあると思う。人材センターで、しがけあを知っているかという統計をとっても面白
かったのかなと思う。ただ、求職者さんは、8割方が中高年の方で、ターゲットではない
が、まず、知ってもらい、興味を持ってもらい、それが、お子さんに伝わるような仕掛け
づくりをしてもいいかもしれないと感じた。来年度色々な工夫していく必要性が出てき
たと思う。

【委員】

- 委員から、報告書には利用された調査会社を明示される方がいいと思うと、お答えいた
だいている。また今後の参考にさせていただけたらと思う。
- アンバサダーに、こちらからしてほしいことを伝えて、動いてもらっていたが、次年度以
降に繋げるためにこんなことしてみたいというアンバサダーの意見集約をお願いしたい。

2. 議題（2）令和6年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料2～4 事務局から説明

【委員】

- 事務局体制について介護福祉士会が事務局を引き受けられるが、人員はどのぐらい割く
ことが可能か。共有の必要があると思う。

【同席者】

- 事業に対する人員としては、2名である。私（事務局長）と、パート職員1名の2名体制
でやって行きたいと思っている。初めて事務局としてやっていく事なので不安であるが、
皆様のご協力を得ながらしっかりやっていければと思っている。

【委員】

- パート職員は専従なのか。

【同席者】

- 専従は難しいが、この事業に比重を掛けてと思っている。

【委員】

- おそらく、意識の切り替えや脳の切り替えがスムーズに行かない可能性があるので、あく
まで一般論で補助金の金額にもよるが、この事業に専従できるよう増員を考えた方
が良いと思う。ここは集中的に人員的資源を投下する方向で、県としても補助金を設定
する際にこういう考え方に立つべきだと思う。

【同席者】

- 週明けに三役会を開き、専従は難しいかもしれないが前向きに話し合いをする。

【委員】

- 次年度に向けて検討会を起ち上げて、話し合いをしていくということで良かったか。そこで、同じ委託業者を継続するのかなども話し合うということか。

【事務局】

- そのとおり。

【委員】

- 事務局は初めてで大変だと思うので、協会・団体でサポート出来たらと思っている。今までのメンバーが継続してくれると、今までの流れもあり、そこから発展方法等アドバイスしやすいと思う。J コミの良し悪しはわからないが、功績はあるので残したほうがよい。先生もすごい視点からのアドバイスがもらえるので、検討会には来ていただきたい。

【委員】

- 介護の魅力発信事業は、介護福祉士会を事務局としてやっていくが、この部会との住み分けはどのようにするのか。

【事務局】

- 介護福祉士会の企画会議は補助事業を検討して貰う。例えば SNS やイベント企画や出前講座等を検討してもらう場となり、部会は魅力発信全体の事を話し合う場になる。
- ほとんどのメンバーは部会と被っているので、事務局の企画会議で補助事業の内容を固められていると思うので、部会で時間を割かなくてもいい。
- 更なる魅力発信ということで、小中学校への魅力発信を検討することを考えている。まずは、長浜市で中学校への出前講座をしながら仕組みが作っていければと思う。市町と連携してということで、部会には、長浜市と津市にオブザーバーになってもらい話し合っていければと思う。

【委員】

- 介護福祉士会が主となり企画会議で検討していくものと、部会という広い範囲で他の部分にも目を向けて行こうという話かなと思うが、役割分担のところで会議の特性がしっかりと定められ進めていけると、効率もよく有効だと思う。両方で、同じようなことが進んでいくと時間の無駄でもったいないことになると思うので、線引きを示されるとすっきりと形成されていく。曖昧なところが多く、想像がしにくいので詰めていくと良いと思う。

【事務局】

- 部会では、介護のしごと魅力発信事業について介護福祉士会から説明する形になり企画会議のような細かい内容を詰める時間は取らないようにする。

【委員】

- 補助事業になり補助金が付き、結局、県行政の事務局部分を介護福祉士会が担っていると、予算の中から事務局人件費を捻出することとなり、全体的な予算はわからないが人件費が必要になる分、業者に委託する予算部分が変わってくると思うが、予算組みがどうなるのか。
- 業界として盛り上げる出発点にするのであれば、委員たちや活躍している人達はわかっていると思うが、この移行期の段階で業界に向けて今後、魅力発信は業界としてやっていくということを、打ち出していないといけない。滋賀県老人福祉施設協議会等は理事会や総会で今ある資料を使って説明しているが、業界がしがけあの認知度をアンケートしないといけない状況はマズいと思っている。今までの流れを知って理解してもらえないと協力が得られない。自分事とは思ってもらえないので、改善のようなきっかけ作りは必要だと思う。

【委員】

- 発信という部分は、県・介護福祉士会に対してというよりも…ということか。

【委員】

- 各団体がどの様に紐付いているかわからないが、滋賀県老人福祉施設協議会だと会員が今回の発信事業をどこまで理解しているか協力を求めてきたが、自走化するのであれば、もっと自分事として考えてほしい、今までと同じではマズいと感じる。

【委員】

- この事業に4年ほど関わり、中学校への出前講座は以前からやっていく話は聞いていたので、いよいよ具体的に進むのだと思っている。県の方で唐突に動き出したような気もする。今までは部会の委員たちで議論しながら意見を出し、そこにJ コミが入って SNS やイベントを具体化しやってきたというみんなで決めてきたという感じであったが、中学校への出前講座は良いことなので、やって行きたいが委員の意見でなく、県がやりたい事業内容のように感じた。

【事務局】

- 唐突感があったと思うが、今年度、レイカディアプランを策定する中でいろいろなところで意見をもらう機会があり、その中に小中学校への魅力発信を市町任せにせず、県も関わるようにという意見をもらった。県ができることという、市町を通じて事業実施してもらう体制を作ることだと考えた。事業者が個々に直接学校に赴き、出前講座をしているということも聞いている。そういうやり方も一つであり、市町や教育委員会を通じてやるやり方も全体に広がるには効果的と考えた。来年度からのプランということもあり急遽今回盛り込んだ。

【事務局】

- 昨年度、担当していた職員や委員の中でも、学校へのアプローチとして勉強会をしていた。その勉強会の中で手法の一つとして終わっていて、その先のアウトプットの部分が無かったので、まずはモデル的にちょっと小さくどこかで1回やってみようということ。そういう場がないと動かないので、今回、勉強会にも参加されていた長浜市と、特に北部

の方は人材確保が厳しい状況もあり、そういう観点でモデル的に一緒に取り組みませんかという流れがあった。

【委員】

- 地元の長浜市はありがたい。旧伊香郡は中学校が4つあるのでその学校で是非受け入れて貰えるよう働きかけてほしい。長浜市で、既に出前講座をしているので連携も必要となってくると思う。県がやるみたいな感じで委員が思うと具合が悪いので、部会やプロジェクトの中でやっていく形で頑張っていければいいと思う。

【委員】

- 中学校へのアプローチと市町連携だが、今回のコンサルはわからないがJコミになった時に、市町連携や中学校とJコミのコラボレーションしていく仕組みは想定されているのか。

【事務局】

- 委託の中にはこの出前講座は含めずに考えている。イベントとSNSとは別に考えており、出前講座はJコミ等には委託しない。

【委員】

- 突然出てきた話ではあったが、中学校はすごくいいと思った。若い時から、介護のことをいろいろ知ってもらうことは大事だと思うので、高校等で依頼があれば介護等の話をして行っているのでは、広がっていければいい。やっていただきたいと思う。教育委員会等が入ってくるので分けた方がいいと事務局も言っていたのでその方がいいと思う。
- 来年度以降の自走化は会員達にも話をしているが、もう少し各団体の中でも協力を得るとしても詰めてもらわないといけないことは多いと思う。みんなで一斉に頑張ろう、業界全体に周知というのは、大事だと思う。みんなが同じ立ち位置で頑張らないといけない。一緒に動ければと思う。

【委員】

- 教育委員会は、この部会に参画されるという事はあるのか。県の方で考えはあるのか。

【事務局】

- 長浜市と話をしたイメージでは、各市町の教育委員会を通じ校長会にということだったので、県の教育委員会の部署に参画してもらうことは考えていない。

【委員】

- 学校の先生が進路相談の中で介護業界はやめるよう発信がされるということも聞いたりする中で、中学校の出前講座で介護の魅力発信していくのは大事なことである。進路を受け止める先生へのアプローチも大事だと個人的に思っている。生徒だけでなく学校の先生たちにも介護を知ってもらい、進路の一つになり得るんだというところも取り組めたいと感じている。

【委員】

- 高校回りをしているが、先生方の介護業界のイメージがよくない感じである。先日のオープンキャンパスに来ていた高校生が未だに3Kのイメージを持っていて、そうではないと話した。今の介護はICT導入等があり今の現実のイメージを広げていくのが大事で、是非、中学校に（出前講座）回ってほしい。何か協力できることがあれば協力したい。介護のイメージを変えていただきたいと思う。

【委員】

- 父兄たちのイメージも変えて行かないといけない。

【委員】

- 給料が安いということも言われているので、オープンキャンパスで、かなり上がっていることも言ってきたけれど、まだまだかなと毎年思っている。アンバサダーにアピールしてほしい。

【委員】

- そこを崩していくのがとても大変である。根強いイメージがあるので大変と感じている。

【委員】

- 委員が言われた、キックオフイベントではないが、何かのきっかけで業界全体としてスタートということになると思う。
- 人材センターでも、アンバサダーにイベントとかふく楽カフェに協力いただいている。今年度はあまり数がこなせていないが、次年度においても協力をお願いすると思うのだが、来年度事務局が変わるが、アンバサダーの増員で想定している人数はあるのか。現在7名だが、何名まで増員できるのか。勝手な要望だが、いろいろな場所でイベントをする中で、アンバサダーが各圏域にいてくれたらいいなと思っている。その辺りを考慮しながら選考して増員してほしい。

【委員】

- アンバサダーの活動は、県が持つのか介護福祉士会事務局と一緒に動いていくのか。

【事務局】

- アンバサダーの活動は介護の仕事魅力発信事業の中で回していく事になるので、県ではなく、介護福祉士会事務局で考えていただく形になる。

【委員】

- アンバサダーの増員人数等は。

【事務局】

- 企画会議の中で考えていただく。

【同席者】

- アンバサダーを増員するという事で、会員に投げかけようと考えている。必要な人数等は把握できていないので、はっきりと答えられない。

【委員】

- 県からの補助率はどうか。全額補助か半額補助か。

【事務局】

- 1,500 万円を定額補助としている。

【委員】

- お金を投下すれば効果があるということが見えてきたので、1,500 万円でどうにかするのではなく、業界全体から薄く広くお金を集め、それを使用していくという発想が大事だと思う。事務局というより、実行・執行体制をどの様に作っていくのかが大事で介護福祉士会に任せたらいいのではない。1,500 万円の中で人を雇用し、内部向けの広報と外部向けの広告宣伝活動を計画的にやっていく事が必要であると思う。
- 1,000 万円で2人雇用すると、役割分担や相互の刺激が起こるので、そういう発想でいいと思う。県庁から1人出向がほしい。出した方が良くと思う。

【事務局】

- 1,500 万円の内訳でそこまで人件費を見込んでおらず、SNS やイベント事業の委託料が大半を占めているので、人員体制にそこまで予算を割くのは難しい。

【委員】

- もう少し自由度の高いお金の出し方をしないとお金が無駄になる。内訳はもう決まったのか。

【事務局】

- 1,500 万円の中で SNS 発信やイベントを実施することになり、プラス協賛金を募ったり、団体が出資するようになると思われるが、今まで J コミにお願いした部分もその中で賄わないといけない。

【委員】

- お金の使い方に対しては、県は口を出さない方が良くと思う。このスタンスは守ってもらわないとお金が活用できない。

【事務局】

- アンバサダーについて、補足したい。介護福祉士会でアンバサダーを出してくださいという主旨ではなく、魅力発信事業の中でアンバサダーを集める、業界全体から、広域の圏域から集められたらということである。

【委員】

- アンバサダーについては企画で機能させるということ。今日の部会では、何か具体的に協議するということではなく、次の展望というところだと思う。県から何か発信等あるか。

【事務局】

- 来年度に向けて、自走化の初年度という事もあるので今までの経過を存じている委員に来ていただきたい。中学校の出前講座も進めていくので、たくさんの意見がほしいと思っている。来年度から、ハイブリッド会議をしていこうと思っている

【同席者】

- 介護福祉士会が事務局を担うのは初めてのことで正直不安であるが、業界全体で盛り上げていくという事は非常に大事だと思っている。より身近に、顔が見れるだけでなく腹の中も見える関係で、会った時に本音でざっくばらんに教えてもらえると心強いのでよろしく願いたい。

【同席者】

- 委員は基本 1 名か。理事を退任するので引き継ごうと思っている。先ほどの話で、経過を知っている委員が残ってほしいとのことであったが、委員 2 名出すことは難しいのか

【事務局】

- 委員は、予算にも関わることなので、1 名で願いたい。団体の都合もあると思うので、次世代の方に引き継いでもらって構わない。委員が全員変わると大変なので、ひと言添えさせていただいた。

【委員】

- 1 年間、部会長を務めこの事業に最初から携わってきて、これからも関わって行きたいと思っている。来年度からは新たな内容と形で進んでいくと思うが、引き続きよろしく願いたい。皆様と協力し、一緒に滋賀の魅力、介護の魅力を発信していければと思っている。

【事務局】

- いろいろな観点からのご意見を頂戴し感謝申し上げます。外向けの広報あるいは介護業界内の広報の重要性等、重要な姿勢だと思った。主体としては、県委託から介護福祉士会へ窓口が移行するが、皆様任せではなく県という体制で取組を前進させていかないといけないことだと思うので、来年度もよろしく願いたい。